

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 名古屋市立丸の内中学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

所在地 〒460-0001  
愛知県名古屋市中区三の丸一丁目9-2

E-mail marunouchi-j@nagoya-c.ed.jp

Website marunouchi-j.nagoya-c.ed.jp

児童生徒数 男子 55 名 女子 51 名 合計 106 名  
 児童・生徒の年齢 12歳～14歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

### 3. 活動内容

#### (1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

生きる力を育むESD – 伝統文化の学びを通して –

##### 1 はじめに

本校では、総合的な学習の時間、社会科、音楽科、英語科、保健、道徳を含め、年間延べ100余名に及ぶ「その道の達人」を講師とした授業を行っている。また、「総合的な学習の時間」については、テーマを「伝統文化」「国際理解」「福祉」「健康・安全」とし、3年間を系統的に見越したカリキュラムを編成している。

このような多くの人材を講師とした総合的・横断的・体験的な学習を通して、生徒は「知識」「技能」を学ぶだけでなく、様々な「考え方」「生き方」に出会い、「人生観」「世界観」を拡げ、これらが統合されていくことによって「生きる力」となっていくことと考えている。

##### 2 本校の特色ある取り組み

本校学区及び周辺は名古屋城を中心とした環境保全地区で、「芸所」として古くから伝わる伝統文化の根付く地域である。そこで、地域に点在する様々な文化施設や文化継承者を「地域の教育力」と位置付け、こうした「地域の教育力」を生かし、「伝統文化を探る」学習活動を展開している。

##### 3 年間計画

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年			伝統文化(お茶・能楽・友禅染)を学ぶ (調べ学習)			堀川下り (名古屋城文化を学ぶ)					
2年	伝統文化(お茶・能楽・友禅染)を学ぶ					文化発表会 (作品とまとめの展示)				お茶の作法を学ぶ (体験学習)	
3年	伝統文化を学ぶ (講座選択:お茶・能楽・友禅染)			能楽鑑賞 (能楽堂)							

##### 4 実践の内容と成果

###### 1年生の実践【堀川下り【屋形船にて】】

1年生では、「お茶の作法」「能楽」「友禅染」について、学校図書館や隣接する愛知県図書館にて調べ学習を行った。また、名古屋城への物資輸送路として作られた「堀川(朝日橋-宮の渡し間)」を屋形船で往復し、堀川の歴史や名古屋城文化を学んだ。年度末には本校の和室で『お茶の作法』の学びとして、全員がお茶のお点前を体験することになっている。

このように、1年生では導入として地の利と五感を活用した学習活動を展開することによって、伝統文化学習に対する興味・関心を持たせるとともに、身近な地域に目を向けさせることで地域愛の育成を図っている。



###### 3年生の実践【伝統文化学習】

3年生では「お茶の作法」「能楽(狂言・能管・鼓)」「友禅染」の3分野をテーマとした講座を開設し、各自の興味・関心に基づき希望の講座を選択して伝統文化について学んだ。「本物の芸や技」を目で見て耳で聞き、芸人や職人とかわり、実際に行うことを通して、伝統文化の知識を深めた。この体験的な学びは、芸人や職人の考え方・生き方に直接ふれることによって、自分自身の生き方について考えるよい機会となった。

### 【お茶の作法】

表千家日本生花司松月堂古流 寺島英子（宗英）先生

第1回～第4回までは講師の寺島先生宅（学区在住）の茶室にてお茶の作法だけでなく、掛け物、茶器、花器、茶室の意義などを学んだ。最終回は名古屋城の茶席で実習した。名古屋城では、書院、猿面望嶽茶席、又隠茶席、織部堂なども見学し、お茶の学びを深めることができた。



### 【能楽】

5回の講座において、狂言、能管、大鼓、小鼓を学んだ。最終回では、身に付けた技を発表し合った。

能楽師狂言方 野村又三郎先生



能楽師大鼓方 河村真之介先生



能楽師笛方 竹市學先生



能楽師小鼓方 船戸昭弘先生 加藤洋輝先生



### 【友禅染】

名古屋友禅伝統工芸士 伊藤勝久先生

デザインや配色を各自で考案し、名古屋友禅の技法を用いて世界に一つのテーブルクロスを制作した。作品は文化発表会の作品展示会で全校生徒・保護者に披露された。



## 5 今後の課題

本実践を保護者や地域に広く情報発信し、多角的な視点から意見や助言を得ること、そして新たなる人材を発掘し「地域の教育力」の向上を図っていくことが必要である。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）